



古代東北の中心として栄えた多賀城  
その城下には多賀城を支える  
都市が広がっていました



関連企画

シンポジウム「再考 古代都市多賀城」

日時 / 2024年12月21日(土) 14:00-16:00 (開場 13:30)

場所 / 多賀城市民会館小ホール (多賀城市文化センター内)

基調講演 / 多賀城のまち並みにみる都市的要素

平川 南氏 (国立歴史民俗博物館名誉教授)

討議 / 近年の発掘調査成果と新たな古代都市像

平川 南氏 (国立歴史民俗博物館名誉教授)

高橋 栄一氏 (宮城県教育庁文化財課長)

武田 健市氏 (多賀城市教育委員会事務局文化財課長)

参加費 / 無料

定員 / 400人 (先着順)

申込み / 10月1日(火)から申込みフォームもしくは電話で受付



令和6年度企画展

# 古代都市 多賀城

2024

10.5 - 12.22  
Sat Sun

多賀城市埋蔵文化財調査センター展示室

(多賀城市文化センター内)

〒985-0873

宮城県多賀城市中央二丁目 27-1

電話 / 022-368-0134

開館時間 / 9:00-16:30

休館日 / 月曜日(祝日を除く)

祝日の翌日(土日を除く)

多賀城市の文化財



検索

<https://www.city.tagojo.miyagi.jp/shiseki/bunkazai/index.html>



主催 / 多賀城市教育委員会

協賛 / 東北電力ネットワーク株式会社 塩釜電力センター

古代都市イラスト: 早川和子氏

# 多賀城

長年の発掘調査で明らかになった古代都市の姿を

多くの貴重な出土資料から紹介

多賀城の南面には、都から延びる東山道とうざんどう駅路とつながる東西大路と南北大路を基準として、いくつもの道路で区画された地割が作られました。そこには公的な施設や役人の邸宅、庶民の住まいなどがあり、まち並みの外側とは異なる特別な空間として発展しました。

昭和50年代から現在まで続く長年の発掘調査の成果から、多賀城を支えた古代都市の姿に迫ります。

- 昭和55 ● 宮城県多賀城跡調査研究所の調査（多賀城跡第37次調査）  
南北方向の道路や運河が発見されました。

- 昭和58 ● 東西大路、万灯会まんどうえの痕跡と「観音寺」銘墨書土器の発見

東西大路の発見



万灯会の痕跡



「観音寺」銘墨書土器

- 昭和63  
平成6 ● 三陸自動車道建設に係る発掘調査（宮城県）  
道路跡が次々と見つかり、城外におけるまち並みの存在が明らかになりました。

- 平成2 ● 国守館跡くにのかみのたちと題箋軸木簡だいせんじくもつかんの発見

国守館復元イメージ



題箋軸木簡

南北大路の発見



- 平成5 ● 南北大路の発見
- 平成9  
平成15 ● 城南土地区画整理事業に係る発掘調査  
東西・南北大路の交差点、橋、大型建物などの発見から、この一帯が城外における最重要地区であることが判明しました。また、多量の祭祀遺物も見つかり、まち並みにおける信仰の様子も明らかになりました。

古代の河底



人面墨書土器



絵馬



かたしろ いぐし  
形代・斎串

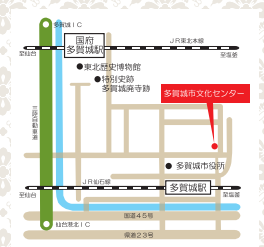
- 平成27  
令和4 ● 多賀城地区ほ場整備事業に係る発掘調査  
新たな道路が発見されたことにより、道路・まち並みの形成過程や内部の様子の解明が進みました。

調査風景



期間中、小中学生を対象に  
展示を見ながら答えを見つける  
歴史クイズを開催！

参加景品あり



〒985-0873

宮城県多賀城市中央二丁目 27-1

電話 022-368-0134